

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 2 回高松市文化芸術振興審議会
開催日時	令和 3 年 2 月 1 6 日(火) 1 9 時 0 0 分～ 2 1 時 2 0 分
開催場所	高松市役所 1 3 階 大会議室
議 題	(1) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の取組状況について (2) 高松版文化芸術プラットフォームの構築について (3) その他 今後のスケジュールなど
公開の区分	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	青山委員、甘利委員、金川委員、鹿庭委員、北岡委員、島田委員（副会長）、多田委員、田中委員、橋本委員（会長）、林委員、若井委員 計 1 1 人 (欠席 4 人 鎌田委員、木ノ下委員、谷委員、水嶋委員)
傍 聴 者	1 人 (傍聴席 4 人程度を確保)
担当課及び連絡先	高松市文化芸術振興課 0 8 7 - 8 3 9 - 2 6 3 6

審議経過及び審議結果
<p>会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。 冒頭、審議会の公開・非公開について審議がなされ、議題(2)「高松版文化芸術プラットフォームの構築について」は非公開の決議がなされた。</p> <p>(1) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の取組状況について 令和元年5月に策定にされた「第2期高松市文化芸術振興計画」に掲げる事業の進捗状況について、事務局から説明し、次のとおり意見があった。</p> <p>< 芸術士の派遣について > (委員) ・ 芸術士派遣施設について、令和2年度と比較すると令和3年度の方が増加している理由は何か。 (事務局) ・ 今までは訪問施設数に上限が設けられていたが、施設の希望に沿い派遣できる仕組みに変更したためである。</p>

(委員)

- ・現在受託している事業者以外で、他の事業者の芸術士派遣事業への参入は可能か。

(事務局)

- ・現在、1者のみに委託している。

(委員)

- ・予算額は横ばいだが訪問施設数が増加しているのは、1施設の実施回数を減少させる代わりに多くの施設に訪問できるようにしたためか。

(事務局)

- ・お見込みのとおり。

(委員)

- ・芸術士派遣において、派遣先施設の費用負担はあるか。

(事務局)

- ・確認の上、後日回答する。

<高松市キャンパスメンバーズ制度について>

(委員)

- ・対象の7施設とはどの施設か。

(事務局)

- ・高松市美術館、高松市塩江美術館、菊池寛記念館、高松市歴史資料館、高松市石の民俗資料館、高松市讃岐国分寺跡資料館、高松市立玉藻公園の7施設である。

(委員)

- ・予算と決算見込みを見る限り、制度が活用されていないように思われるので、制度周知をお願いしたい。

(事務局)

- ・更なる制度利用の周知について検討したい。

<屋島山上拠点施設について>

(委員)

- ・令和2年度予算額に対して決算見込み額に大きな乖離があるが、工事の遅れの影響か。

(事務局)

- ・工事の遅れや、予定工事価格の低下によるものである。

(委員)

- ・完成時期はいつか。

(事務局)

- ・令和3年度中の施設完成を目標に工事を進めている。施設のオープンはもう少し

先になる予定である。

<今年度未執行分の予算について>

(委員)

- ・コロナ禍の影響で執行できなかった予算は来年度に回ることはないか。

(事務局)

- ・今年度執行できなかった予算を来年度に繰り越すことはしないが、文化事業について必要な予算は確保していく。

<予算の配分、事業の精査について>

(委員)

- ・事業の精査は、現在検討中のプラットフォームに今後委ねる考えか。

(事務局)

- ・検討内容のひとつではあるが、未定である。

(委員)

- ・事業の精査はどこで行われる見込みか。文化芸術予算以外に増額配分された影響が、文化芸術予算に来ることは心配である。

(実行委)

- ・一義的には主管課が事業の必要性を判断する。全体を俯瞰した視点で精査を行う制度については、導入への検討に至っていない。

<イサム・ノグチ庭園美術館の利用料負担について>

(委員)

- ・利用者数が少ないためか制度廃止となっているが、制度を継続させて小中学生のうちにイサム・ノグチ庭園美術館を見てもらえるようにしてほしい。

(事務局)

- ・他の校外活動と同様、他の補助金を活用するため、廃止としている。施設及び制度の周知を行うことは重要だと考えている。

(委員)

- ・小中学校が利用を敬遠する理由があるならば、使わない理由の調査をしてはいいかがか。

<デジタル技術の活用が推進される中における文化芸術についての本市の考え方について>

(委員)

- ・デジタルやIT技術の活用が推進されている中、文化芸術に関する高松市の考え方は。

(事務局)

- ・コロナ禍でも活動できるようなオンラインでの取組み等に対して、補助金で支援する制度を設けた。一方、生の文化芸術を伝えたい、鑑賞したいという声もあるので、様々な要望に応じた支援をできる取組みを検討したい。

<民間ギャラリーの活用に対する支援について>

(委員)

- ・市有施設では、作品を展示できる場所が限られている。民間ギャラリーがどの程度あり、そこで展示が可能かという情報を把握しているか。コロナ禍で民間ギャラリーも経営が苦しいため、協力する方法が必要ではないか。

(事務局)

- ・高松アーティスト・イン・レジデンス事業では、一部空き家等の情報提供をアーティストに行っているが、文化芸術の発表の場の要望があることも承知しているため、市有施設のみならず、民間施設との連携を模索したい。

<情報発信について>

(委員)

- ・部署ごとではそれぞれ情報発信を行っているが、高松市の文化芸術情報を総合的に発信することは行っているか。

(事務局)

- ・一元的な情報発信を行っている特設のウェブサイトはなく、高松市公式ウェブサイトを集約して発信している。一方で既存の媒体では情報が届かない層も出てきているため、様々な手段を活用し工夫しながら情報発信を行うことが大事だと考える。

(委員)

- ・高松市が発信した情報を、より多くの人を受け取れる方法ができれば良いのではないか。

<高松市文化奨励賞について>

(委員)

- ・令和2年度は新人部門受賞者はいなかったのか。
- ・応募者はどの程度いるのか。

(事務局)

- ・新人部門受賞の該当者はいなかった。
- ・応募自体は自薦他薦含めて若干名いるが、選考の結果、該当者がいなかった。

(委員)

- ・応募が少ない理由はあるのか。

(事務局)

- ・応募が少ない要因は不明だが、推薦が活発になるよう検討したい。

(委員)

- ・分野が広すぎるのではないか。部門別にしても良いと思う。
- ・過去の受賞者が部門別に集まって発表できる機会が設け、その場で子どもたちのワークショップを開催するなどしても良いのではないか。
- ・受賞分野の幅が広すぎる。

<まなびCAN・子ども教室について>

(委員)

- ・定員割れの講座があるということだが、ボランティア講師に頼って開講することに限界があるのではないか。

<0才からのコンサートについて>

(委員)

- ・人気がありすぐに定員に達するとのことなので、予算の都合もあるが、より多くの人に鑑賞してもらえる工夫をしてほしい。

(2)高松版文化芸術プラットフォームの構築について

非公開

以 上